

令和3年2月12日

令和2年度 丹波小学校 学校関係者評価のまとめ

丹波山村立丹波小学校
校長 樋川 和之

令和3年2月9日（火）午後7：00より丹波中学校において、「丹波小中学校学校評議員会・学校関係者評価会議」を実施。8名の学校評議委員が参加。

出席者 学校評議員 嶋崎 竜馬 様・酒井 隆幸 様
 丹波小 PTA 会長 佐上 敦則 様
 丹波中 PTA 会長 石川 寿行 様
 丹波小 樋川 和之 校長 横澤 敏英 教頭
 丹波中 清水 浩喜 校長 鈴木 康文 教頭

1 学校側から提案された事項として

- (1) 令和2年度 学校経営の課題と取り組みについて
- (2) 令和2年度 学校関係者評価について
- (3) 令和3年度 行事予定について

2 評議員の皆様から出された意見等

- (1) 学校経営に関する成果と課題について

⇒意見

- ・山村留学制度に対する専門的な機関や組織の位置づけが必要ではないか。学校や教職員の限界を感じる時がある。
- ・地元から通う子どもにとっても、山村留学できた子どもにとっても、よりよい環境作りや学校づくりが必要になる。村教委の進めているCSの方向性についても、スピード感をもって進めてほしい。

- (2) 児童生徒に関して

⇒意見

- ・学校に行きにくい状況が時々ある。どの子もそうかも知れないが、環境が変わったり、

大きな行事などがあつたりする場合に、子どもの不安感が大きい。授業参加の1つの方法として、オンラインによる授業形態も進めることができないだろうか。それが、丹波小中学校の特色にもなればいいのではないか。

- ・丹波山村の豊かな自然を生かした自然体験を学校教育の中心にしてほしい。中学校と比較して小学校の自然体験が少なく感じる。また、学年によっては人数が少なく大きな負担がある。それが、プレッシャーに感じる場合も出てくるので、少しずつ負担を軽減できるようお願いしたい。

(3) よりよい学校をつくるため

⇒意見

- ・地域コーディネーターとしての人材が必要ではないか。その人や組織を中心に学校との連携を図り、いろいろな組織と連携していくことで、もっと幅広い活動がもっと楽にできるような気がする。
- ・保・小・中を通してつくっていきける活動や環境作りが必要になるのではないか。それが特色にづくりにつながると思う。そのために、定期的に話し合いをもち、より多くの人と考えていきたい。

3 分析・評価として

丹波山村の豊かな自然を生かした活動や、iPadを活用したオンライン授業、地域との連携を踏まえたコミュニティースクールの実現など、多くの御意見を聞く貴重な機会となった。今後、丹波地区の特色づくりを模索していくことで、「丹波っ子教育」について、考えていくよい機会となった。

また、山村留学制度で転入学してきている子どもたちが増えてくる中で、多様で柔軟な学ぶ機会を考慮していく必要性も出てきている。少人数だからこそできる「きめ細かな指導」の上に、さらに新たな教育指導体制づくりなどに取り組み、「心豊かでたくましく生きぬく丹波の子ども」を育成していきたい。

さらに、保育所・小学校・中学校までを含めた連携した教育活動を考えていくことも、今後の課題に挙げられた。今後もしっかり話し合う機会を確保し、できる限りの連携を図っていきたい。